

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791900117		
法人名	医療生協かわち野生活協同組合		
事業所名	グループホーム さんがの杜		
所在地	大阪府大東市三箇5丁目6番22号		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍にあり、家族様との面会ができにくいですが、その中でも、1か月に1回はお菓子れくなど、行事を行い、外気浴をしたりと、なんとか、このコロナの時期をにり切ってきている。9名定員の個室対応で、部屋で過ごすこともできるが、ほとんどの方が、自然とフロアに出てきて、みんなと過ごすことが、一人ひとり楽しいようで、個々に、脳トレや塗り絵、パズルなど行い、昼食、夕食前にはちょっとした体操と、嚥下体操を行っている。食事もクックチルではあるが、いろいろなメニューがあり、炊き込みご飯やちらし寿司、敬老の日や正月には、赤飯が出るなど、入所者様も美味しいようで、満足されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームさんがの杜」の経営母体である医療生協かわち野は、地域の要望「いつまでも生き生きと暮らしたい」の想いの中から1971年に設立された。現在、病院1ヶ所、診療所、診療所5ヶ所、をベースに介護福祉事業を約30ヶ所事業展開している。この事業所は、その内の一つで平成26年に設立された。「誰もが住みなれた町で最期まで安心して生活できる介護事業を」を理念として、医療・介護・福祉、が一連の流れで対応できるよう各事業所協力し合っ、看取りの学習会には診療所の看護師を講師としたり、水害等自然災害では隣接する小規模多機能施設に避難するなど体制を整えている。楽しみの行事レクリエーションとして、月に一度は食事レクリエーションがあり、利用者の要望に応じている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有しているが、グループホームとしての理念がないため、検討していく。	「誰もが住みなれた町で最期まで安心して生活できる介護事業を」という理念を玄関に掲げ、職員は安心安全のサービスの提供、サービスの質にこだわり、地域とのつながりを大切にすること、を目指して実践に繋げている。	法人の理念を基本として、それを具体的に達成するための事業所独自の目標をつくり、実践していく事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、外出することができず、家族や友人との、施設内での交流には、制限がある。面会は基本的に禁止している。	コロナ禍のため、外出や家族等との面談も中止しているが、内科以外の専科の通院では家族が付き添うため、家族との面談や近隣の方々との挨拶も交わしている。また、日曜ごとに事業所外部スロープまで出て、外気に触れるとともに出会う近隣の方々と挨拶を交わしている。家族や友人との電話の取り次ぎなどもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者への訪問行動で、グループホームの紹介や、認知症の早期発見のアンケート用紙を配って回った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、ほぼ、書面開催となっている。	コロナ禍のため書面開催ではあるが、地域の代表、民生委員、法人理事、法人課長、事業所管理者等が参加して、事業所の入居状況、利用者の生活状況や職員の研修、活動報告をし、各委員の意見を求めている。身体拘束等適正化委員会についても簡潔に触れている。内容については、玄関にファイルして開示している。	運営推進会議はサービスの向上のため、事業所からの報告と共に利用者及び家族の意見要望も受け、他のメンバーから率直な意見を貰うようにして欲しい。運営推進会議への関心を得るため利用者家族へ参加の呼びかけを期待する。また議事録を全家族に配布する事を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナワクチンの推進や介護保険の申請など、わからないことは随時相談している。	市役所高齢介護室高齢政策グループの担当窓口申請手続きの事やワクチンの事等色々判らない事を相談している。また、地域保活支援センターとは運営推進会議に出席して貰ったり研修会にも参加するなど積極的に協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒のリスクがある方もおり、センサーマットを使用しているが、なるべく行動を制限しないようにはしている。玄関先は直ぐ車道なため、玄関は安全のため、キーロックになっている。	身体拘束等適正化委員会を4月・7月・10月・12月と年に4回、法人理事、法人介護課長、事業所管理者と構成員を定め開催している。適正化のための指針は法人で作成し、職員がやむを得ず拘束する場合の対応等を記述している。研修会は年に2度、スピーチロック等テーマを決め実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、虐待の学習会も実施しようと考えているが、まだ実施出来ていないため、今年度中には実施したいと思っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人のいる方が入所されてきたため、今後のためにも、情報共有していきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて説明し、納得した上で、署名していただいている。追加加算についても随時、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回法人で満足度調査のアンケートを取っている。	コロナ禍で面会を制限しているため、利用者の状況を電話で伝え、その中で「ガラス越しでもいいから会わせて欲しい」等家族の要望を聞いたりしている。法人のアンケート内容についても月に一度行われている職員会議で報告し職員間で共有し運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職場会議で意見を聞き、業務などの改善に努めている。	職員会議を月に一度行っているが、意見要望は、掃除の方法、食事レクリエーションを月に一度はする等行事内容やコロナ禍における利用者のストレス解消等業務改善の意見等もある。法人でも年に一度アンケート調査があり、併せて職員の意見をよく聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ残業せず、協力しあって、日々の業務に努めている。また、できるだけ、年休消化にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人企画のインターネットの学習会に、できる限り、全職員が取りくんでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で月1回施設系の会議があり、そこで、交流を深めながら、わからないことや、改善していった方が良い点など共有している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者情報を作り、職員が共有できるようにし、不安感を訴えられる方には同一の対応ができるように、心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とは、電話やメールのやり取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画書を作成するにあたって、アセスメントを行い、困っていることなどを聞き取りしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他の入所者様とも、人間関係が築けるように、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であり、面会を制限しているが、どうしてもの場合、中庭から、ガラス越しに会っていただくなど、できるだけ、顔が見えるように、している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなかコロナ禍で、なじみの方や、友人との交流が出来ていない。	コロナ禍ではあるが、内科以外の専科の通院時の付き添いは、家族が対応している。また、友人や家族からの電話の取り次ぎなどをして、限られた範囲ではあるが、馴染みの人との関係継続の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話ができる方は入所者同士で話して、笑顔もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族様から連絡が来ることがあり、丁寧に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の部屋を家の部屋のようにして、できる限り、その人らしい暮らしを支援している。	利用者本人が表現することが難しい場合は、個別ケアの場で色々反応を見て、把握するようにしている。料理が好きな利用者、塗り絵などが好きな利用者、散歩が好きな利用者等を見出し、日常の提供サービスに加え、ケアプランにも組み込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に聞き取り、入所の段階で家の部屋のように、工夫していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人にあったケアを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議などで、個々人の意見を聞き、よりよいケアができるように、支援している。	月々モニタリングでチェックをし、支援経過を見ながら3～6ヶ月毎に介護計画を見直している。しかし変化が生じた時には、家族の承諾を得た上で臨機応変に見直しを行っている。ケアカンファレンスでは都度、利用者の課題や利用者や家族の要望を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケアマネの支援経過にて記録し、毎日の申し送りも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望や、家族様の外出の希望もあるが、コロナ禍のため、遠慮いただいている現状。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで地域との交流は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が月2回あり、健康状態の観察ができています。	入居時に説明してかかりつけ医を決めており、多数は協力医の紹介で入居して、協力医を主治医とし、1名のみ以前のかかりつけ医としている。内科の訪問診療は月2回・訪問歯科は希望者のみ受診している。その他の医療機関には家族が付き添ったり管理者が付き添い受診している。2名の利用者は訪問リハビリを受けている。看護師は週3日勤務し浣腸や爪切り・健康観察をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療行為の必要な方の対応など、看護師に随時連絡、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、医療機関にサマリーなど必要事項を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良になった場合、施設で最期を過ごす希望があれば、看取り体制をとり、学習会なども、行っている。	契約時に重度化や看取りについての説明をして書類を作成している。利用者の状態が変化した時には主治医より家族に看取りについて説明し話し合い同意書を交わしている。職員は看護師による看取りの勉強をして対応している。昨年は1名の看取りを経験している。看取り後はカンファレンスにて振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	何かあれば、直ぐに看護師、管理者に連絡があり、早急に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回風水害と避難訓練を行い、備蓄もできるだけ置いている。BCPの作成中。	災害時のマニュアル・連絡網を用意しハザードマップで避難場所の確認をしている。年2回5月・12月(夜間)を想定した避難訓練を実施している。非常物品のセットを用意し賞味期限の確認をしている。近隣在住職員や組合員に災害時の参集を話し合っている。法人のBCPの勉強会に参加して計画書を作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄などは、小さな声で声掛けしたり、寝るときはわかる方は施錠したりと、個人のプライバシーに努めている。	法人の接遇研修に参加しており、利用者の尊厳を損なわないよう言葉遣いや、名前の呼び方に気を付けている。排泄時の声掛け・入室時にノック・声掛けをし、利用者のプライバシーに配慮したケアに努めている。不適切な言葉遣いの場合を都度注意している。個人情報書類は施錠できる事務所の書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか忘れる病気のため、何かを言って対応しても同じことの繰り返しになることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか業務に追われ、ゆっくり関われる時間が少ない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服が着れるように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食形態をその人の嚥下状態に合わせて行い、できるだけ、経口摂取をしていただいている。手伝っていただけの方には、食器洗いなどしていただくこともある。	食事は3食チルド食を利用し時にはキッチンでチラシ寿司・オムライス等を作り提供している。利用者の食事形態に合わせた提供もある。食事中は音楽をかけ食事介助を受けながら和やかに過ごしている。月に1度日曜日におやつ作りの日を決め、利用者は職員と一緒にホットケーキ・ドラヤキ・おはぎ作りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある方もいるが、チェック表にて、水分量、食事量を観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア行っている。毎週火曜日には訪問歯科にて義歯の調整や口腔ケア行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、日中は大体2時間毎にトイレ誘導行い、トイレでの排泄ができている。夜間は睡眠を優先し、オムツ対応の方もいるが、できるだけ、個人にあったタイミングでパット交換行っている。	日中は1名のオムツ利用者以外は声掛け誘導してトイレでの排泄を支援している。夜間はオムツにしたり安眠を優先してパット交換をする人や、声掛け誘導をしてその人にあった排泄の支援をしている。夜間のみポータブルを利用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにヨーグルトを取り入れたり、薬にも頼りながら、できるだけトイレに座り、排便促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1対1で行い、週2回の入浴を行っている。	入浴は基本週2回午後に利用者の様子を見て入浴しており、拒否する人には時間や人を替え柔軟に対応している。浴槽は櫓で作られていて職員と1対1で会話を楽しみながら寛いでいる。重度の人は2人介助でシャワー浴対応をしている。	入浴は利用者の楽しみな時間であり、重度の人も入浴出来るよう人員確保の工夫や、小規模多機能型の機械浴を利用する等、楽しく寛ぐ入浴が出来る工夫をされることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を取り入れたり、本人のタイミングで起床したりと、個人の状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員で管理している。できるだけ精神面では、職員のケアで安心して過ごしていただけるようにしているが、どうしても場合は内服薬しようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回は誕生日会や行事ごとなど行い、お菓子を手作りするなど、季節感を味わってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出はできていないが、玄関先の空気を吸いに出たりと気分転換は行っている。	玄関先に出て日光浴をしたり、中庭の花を眺めたりプランターの花を見て外気に触れている。家族と通院に出かけている。外出の制限があるため、レクリエーションで歌を歌ったり体操をして体を動かしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は金庫で管理しているが、基本的には家族様に管理していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から手紙や電話があった場合は、代読したり、電話を替わったりして対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはわかりやすいように、紙を貼ったりしている。カーテンを開けると、白内障の方は眩しいと閉められるため、代わりに照明を明るくしたりしている。	窓は大きく明るいリビングはカーテンや照明に配慮している。換気に気を付け窓は開放し換気よく、空気清浄機・加湿器を置いている。壁に習字や貼り絵・鬼の塗り絵・カレンダーを貼り季節を感じることができる。テーブル・テレビ・ソファ・スピーカーを置き、職員が毎日清掃して清潔で居心地よくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナの影響でテーブルにアクリル板を設置している。個人レクなどは、気にせずされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境に部屋をしても、最終的にわからなくなり、ぐちゃぐちゃにされることが多い。	入り口には分かりやすく名前を書いた紙を貼っている。窓は大きくて部屋は明るい。ベッド・カーテン・エアコン・洗面台が用意しており、利用者はテレビ・筆筒・冷蔵庫を持ち込み、ぬいぐるみやフクロウの置物を置いて、カレンダーや窓との写真を貼り利用者の居心地よい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖を使われる方、車いすの方と様々なため、できる方には歩いていただき、歩けない方には日々の体操で足踏みなど多めに行い、機能を保っている。		